

## ～鍼灸漢方外来の取り組み～ 老齢犬の悪性メラノーマの一例

Effort of Acupuncture and Chinese medicine treatment.  
A case of malignant melanoma of senior dog

藤原千春

Chiharu FUJIWARA

はる動物病院

Haru Animal Hospital

### はじめに

近年日本では、ヒト同様にペットも高齢化が進んでいる。また、核家族化・少子化など時代の流れによりペットは単なる「愛玩動物」ではなく「家族の一員」として位置づけられるようになってきている。当院では、一般診療の診察に加え鍼灸漢方外来を設置し、「家族の一員」であるペットに対して幅広い診療を心がけており、今回当院の鍼灸漢方外来の取り組みとその症例を紹介する。

### 症例

雑種犬、去勢♂、14 歳

初診時（2014.6.30）の主訴は尿漏れ。2 年前に去勢手術を行い、それ以降尿漏れが続いている。元気・食欲などの一般状態および血液検査所見に異常なし。脈診は沈脈。舌診は淡紅色。腎気虚と診断し、鍼灸治療および漢方治療を開始した。また、自宅でのケアとして温灸と薬膳食の手作りを提案した。

治療を始めてから、排尿の勢いが良くなり尿漏れは減少した。鍼灸治療を行った日は完全に尿漏れはなかったが、数日後には尿漏れが再発していた。

患者は自宅が遠方で継続的な通院は困難であったため、電話にて状態を聴取し、漢方の処方と薬膳食や温灸など自宅のできるケアをアドバイスした。

### 治療の転機

ところが 2014 年 7 月に眼瞼に悪性のメラノーマが見つかり切除。さらに初診時から 11 か月後には咽頭部にもメラノーマが発見され、大学病院で放射線治療が行われたが、8 か月後に肺転移が見つかった。咳が強くなり、一般状態の悪化が認められたため漢方治療を再考し、ツムラ補中益気湯、イスクラ西伯利亜を処方したところ、1 週間後には咳が減少し一般状態が改善した。肺転移発覚から 2 か月後には咳は完全になくなり、肺転移から 24 か月が経過しているが現在も一般状態は安定している。

### まとめ

現在、鍼灸漢方外来を実施している動物病院は少ないため、遠方から来院されるケースも少なくないが、飼い主と中医学の知識を共有することで直接診察することができなくても患者へのアドバイスは可能であり本症例は高い QOL を維持することができた。

中医学を診療に取り入れることは患者・飼い主・動物病院それぞれにメリットがあり今後も普及に尽力したいと考えている。